

平成28年度病虫害発生予察予報第4号（7月）

平成28年7月5日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
水稲（早期稲）	いもち病（穂いもち） ツマグロヨコバイ セジロウンカ ヒメトビウンカ	平年並（県下全域） <u>多（中央）、やや多（東）、</u> 平年並（中西）、やや少（西） やや少（県下全域） <u>多（中央）、</u> 平年並（東）、やや少（中西、西）
水稲（普通期稲）	いもち病（葉いもち） ツマグロヨコバイ セジロウンカ ヒメトビウンカ	<u>多（東、中西）、</u> 平年並（中央、西） <u>多（東、中央）、やや多（中西）、</u> やや少（西） <u>多（中央、中西）、</u> やや少（東、西） <u>多（東、中央）、</u> 並（中西）、やや少（西）
かんきつ類（温州みかん）	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類	やや少（中央） <u>多（中央）</u> 少（中央） やや少（中央） 少（中央）
かんきつ類（中晩柑類）	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類	<u>多（中西、西）、</u> 平年並（東）、少（中央） <u>多（中央、中西）、</u> 平年並（西）、少（東） <u>多（中央、中西）、</u> 平年並（西）、少（東） <u>多（中西）、</u> やや多（中央）、やや少（東、西） 少（県下全域）

※ （ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

I 気象予報（高松地方気象台 6 月 30 日発表）

＜予想される向こう 1 か月の天候＞ 7 月 2 日から 8 月 1 日

期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう 1 ヶ月の平均気温は高い確率 50% です。日照時間は平年並または高い確率ともに 40% です。

週別の気温は 1 週目は高い確率 60% です。2 週目は平年並または高い確率ともに 40% です。3 ～ 4 週目は平年並または高い確率ともに 40% です。

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1 ヶ月	四国地方	気温	10	40	50	
		降水量	30		40	30
		日照時間	20	40	40	

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1 週目	四国地方	10	30	60	
2 週目		20	40	40	
3 ～ 4 週目		20	40	40	

＜予報の対象期間＞

1 ヶ月：7 月 2 日（土）～ 8 月 1 日（日）

1 週目：7 月 2 日（土）～ 7 月 8 日（金）

2 週目：7 月 9 日（土）～ 7 月 15 日（金）

3 ～ 4 週目：7 月 16 日（土）～ 7 月 29 日（金）

II 病虫害発生予想

1 水稻（早期稲）の病虫害

1) いもち病（穂いもち）

予 想 発生量：平年並（県下全域）

根 拠

(1) 6 月の調査では県下全域で発生が見られた。特に中央部、中西部、西部で発生が多く、6 月 30 日に注意報を発令したが、7 月は晴れが多いと予想されているため、穂いもちへの移行は少ないと考えられる。

対 策

(1) 気象や発生状況に注意し、進行型病斑を認めたら速やかに薬剤防除を行う。
 (2) 本県での発生は確認されていないが、他県では QoI 剤の耐性菌が確認されている。QoI 剤耐性菌発生を防止するため、これらの剤の使用回数は作期を通じて 1 回以内とする。

2) ツマグロヨコバイ

予 想 発生量：多（中央部）、やや多（東部） 平年並（中西部）、やや少（西部）

根 拠

(1) 6月の調査では県下全域で発生が見られた。県中央部では発生面積が多かったが他の地域では平年並～少なめの発生面積であった。また、いずれの地域でも密度が高いほ場は見られなかった。

(2) 7月の気温は高めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 近年、本県における発生は見られていないが、本虫は萎縮病を媒介するので発生に注意する。また、出穂期から登熟期にかけて密度が高密度になると、実入りが悪化することがあるので注意する。

3) セジロウンカ

予 想 発生量：やや少（県下全域）

根 拠

(1) 6月の調査では県下全域で発生が見られたが、全般的に発生面積は少なく、密度の高いほ場も少なかった。

(2) 7月の気温は高めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) セジロウンカはトビイロウンカ、コブノメイガ同様、中国大陸等から飛来する害虫であるため、ほ場内での発生に注意する。多飛来があった場合には、産卵痕や吸汁により生育被害が出る可能性があるので注意する。

4) ヒメトビウンカ

予 想 発生量：多（中央部）、平年並（東部）、やや少（中西部、西部）

根 拠

(1) 6月の調査では県下全域で発生が見られた。県中央部では発生面積が多かったが、他の地域ではやや少なめ～少なめの発生面積であった。また、いずれの地域でも密度が高いほ場は見られなかった。

(2) 7月の気温は高めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 本虫による直接被害は少ないと思われるが、縞葉枯病を媒介するので発生に注意する。

2 水稻（普通期稲）の病虫害

1) いもち病（葉いもち）

予 想 発生量：多（東部、中西部）、平年並（中央部、西部）

根 拠

(1) 6月の調査では県下全域で発生が見られた。県東部、中央部では発生面積が多く、発病程度が高いほ場も見られたが、中西部、西部は平年並の発生であった。

(2) 7月は晴れが多いと予想されているため、病勢の進展はほとんどないと考えられる。

対 策

(1) 気象や発生状況に注意し、進行型病斑を認めたら速やかに薬剤防除を行う。

(2) 本県での発生は確認されていないが、他県ではQoI剤の耐性菌が確認されている。
QoI剤耐性菌発生を防止するため、これらの剤の使用回数は作期を通じて1回以内とする。

(3) 窒素過多は発病を助長するので、穂肥等の施用は生育状況を見ながら適切に行う。

2) ツマグロヨコバイ

予 想 発生量：多（東部、中央部）、やや多（中西部）、やや少（西部）

根 拠

(1) 6月の調査では県西部以外で発生が見られた。県東部、中央部でやや多めの発生面積であったが、中西部は平年並の発生であった。密度は東部でやや高めであったが、中央部、中西部は平年並であった。

(2) 7月の気温は高めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 近年、本県における発生は見られていないが、本虫は萎縮病を媒介するので発生に注意する。また、出穂期から登熟期にかけて密度が高密度になると、実入りが悪化することがあるので注意する。

3) セジロウンカ

予 想 発生量：多（中央部、中西部）、やや少（東部、西部）

根 拠

(1) 6月の調査では県西部以外で発生が見られた。県中央部、中西部では発生面積が多かったが、東部は少なかった。また、いずれの地域も密度が高いほ場は見られなかった。

(2) 7月の気温は高めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) セジロウンカはトビイロウンカ、コブノメイガ同様、中国大陸等から飛来する害虫であるため、ほ場内での発生に注意する。多飛来があった場合には、産卵痕や吸汁により生育被害が出る可能性があるので注意する。

4) ヒメトビウンカ

予 想 発生量：多（東部、中央部）、平年並（中西部）、やや少（西部）

根 拠

(1) 6月の調査では県西部以外で発生が見られた。県東部、中央部で発生面積が多く、東部では密度も高かった。

(2) 7月の気温は高めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 本虫による直接被害は少ないと思われるが、縞葉枯病を媒介するので発生に注意する。

2 カンキツ（温州みかん）の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：やや少（中央部）

根 拠

- (1) 6月の調査では発生面積はやや少なめ、発病程度は平年並であった。
(2) 7月は晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少ないと考えられる。

対 策

- (1) 幼木や発生の多い園地では黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により、春葉への感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：多（中央部）

根 拠

- (1) 6月の調査では発生面積は多かったが、発病程度の高いほ場は見られなかった。
(2) 7月は晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少ないと考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。

- (2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

予 想 発生量：少（中央部）

根 拠

- (1) 6月の調査では発病が見られなかった。7月は晴れの日が多いと予想されているため発生は少ないと考えられる。

対 策

- (1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢は剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：やや少（中央部）

根 拠

- (1) 6月の調査では発生面積は少なく、発生程度も低かった。
(2) 7月の気温は高めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

5) カメムシ類

予 想 発生量：少（中央部）

根 拠

- (1) 6月の調査ではほ場での発生は見られておらず、フェロモントラップへの誘殺もほとんど見られていない。

対 策

- (1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、園内をよく観察して、飛来を確認したら周辺作物への飛散防止に努めながら早めに防除する。

2 カンキツ（中晩柑類）の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：多（中西部、西部）、平年並（東部）、少（中央部）

根 拠

(1) 6月の調査では県中西部、西部で発生面積が多かったが、発病程度は平年並であった。中央部での発生は見られなかった。

(2) 7月は晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少ないと考えられる。

対 策

(1) 幼木や発生の多い園地では黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により、春葉への感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：多（中央部、中西部）、平年並（西部）、少（東部）

根 拠

(1) 6月の調査では県東部以外で発生が見られた。県中央部、中西部で発生面積が多かったが、発病程度の高いほ場は見られなかった。西部は発生面積、発病程度とも平年並であった。

(2) 7月は晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少ないと考えられる。

対 策

(1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。

(2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

予 想 発生量：多（中央部、中西部）、平年並（西部）、少（東部）

根 拠

(1) 6月の調査では県下全域で発生が見られ、県中央部、中西部で発生面積が多めであった。発病程度が高い地域は見られなかった。

(2) 7月は晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少ないと考えられる。

対 策

(1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢は剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：多（中西部）、やや多（中央部）、やや少（東部、西部）

根 拠

(1) 6月の調査では県中央部、中西部、西部で発生が見られた。県中西部で発生面積がやや多めであったが、中央部は平年並、西部は少なめであった。密度は中央部、中西部でやや高めであったが、西部は低かった。

(2) 7月の気温は高めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除

を心がける。

5) カメムシ類

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

(1) 6月の調査ではほ場での発生は見られておらず、フェロモントラップへの誘殺もほとんど見られていない。

対 策

(1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、園内をよく観察して、飛来を確認したら周辺作物への飛散防止に努めながら早めに防除する。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ（こうち農業ネット）

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.

こうち農業ネットサービス※

・携帯電話を使った病虫害関連情報（どなたでも利用可能です）

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/i/info>（Iモード）

トップメニュー→地域情報→タウンガイド・行政→高知県庁メニュー→農業情報（ezweb）

四国メニュー→タウン情報・行政→高知県庁メニュー→農業情報：(ヤフー)

①病虫害発生予察情報（概要）

※ 閲覧は無料ですが通信料は別途必要となります